

第 87 回 IRIDeS オープンフォーラム「2023 年度 災害レジリエンス共創研究報告会」 を開催しました (2024/7/26)

テーマ：災害レジリエンス、災害デジタルツイン、ヒューマンレジリエンス、人流データ、共創・連携
会場：オンライン開催
URL：<https://irides.tohoku.ac.jp/event/irides-forum/irides-forum2024/20240726.html>

2024 年 7 月 26 日 (金)、「2023 年度災害レジリエンス共創研究報告会」をオンラインにて開催しました。本報告会は、昨年度に「災害レジリエンス共創研究プロジェクト」として実施された、災害科学国際研究所と学内外の研究機関との共同研究の成果発表の場であり、IRIDeS オープンフォーラムの恒例のイベントとして毎年開催しています。

はじめに江川新一センター長から開会の挨拶として、本プロジェクトは、災害に対して速やかに回復しよりよく復興する「レジリエント (強靱)」な社会をめざす研究であること、どの分野においても「レジリエンス」というテーマで連携し、研究者間のネットワークを広げるための機会である、という趣旨が示されました。また、国際的な研究水準の向上を目指し、成果論文には「disaster」「resilience」のキーワードを入れて頂きたいことをお伝えしました。引き続き、シンボルプロジェクトである「災害デジタルツイン開発に関する研究」「人流データを活用した社会動態の解明に関する研究」と 4 つの重点研究領域である「災害レジリエンス数量化研究」「ヒューマンレジリエンス研究」「災害情報キュレーション研究」「災害レジリエンス共創」から 26 課題の発表を行いました。また、NTT と当研究所による共同ビジョン共有型共同研究からは 2 課題の発表を行い、安心かつ安全な状態への行動変容の実現に向けた研究開発の成果報告がなされました。

専門分野の異なる研究者間の活発な議論を通じて、研究が深まり、新たな課題も発見されるなど、非常に有意義な報告会となりました。閉会の挨拶では栗山進一所長より、本プロジェクト、報告会を通して更なる連携を深めて社会実装を実現していただきたいとの期待が示され、会を締めくくりました。

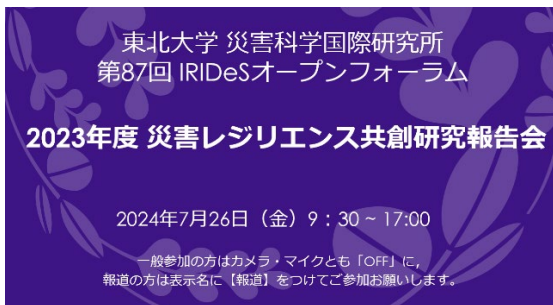
本報告会は、当研究所、学内外研究関係者のほか一般の方々も含め、1 日を通して 100 名近い皆さまにご参加いただきました。多様かつ激甚化する災害が避けては通れないなかで、喫緊の課題として社会の災害レジリエンスのあり方を共有する意義ある機会となりました。

2024 年度共創研究プロジェクトでは 42 の研究が実施されています。災害レジリエンス共創センターでは、これまでの連携を活かし、さらなる実践的な研究活動を推進してまいります。

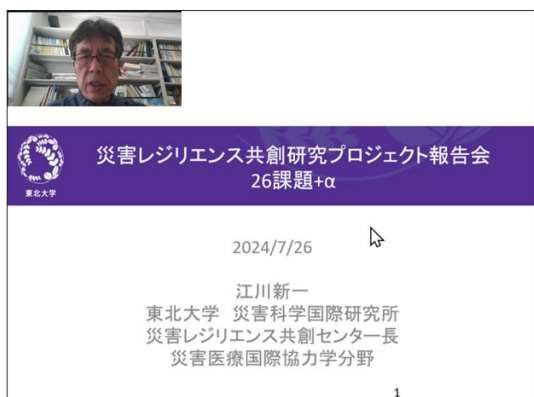
運営：災害レジリエンス共創センター (永田彰平、ユアン・ウェイ、武田百合子)
IRIDeS オープンフォーラム WG (高橋尚志、ゲルスタ・ユリア、内田典子、石澤堯史)
認知科学研究分野 (齋藤玲)

<プログラム>

9:30- 9:40	開会の挨拶 (センター長：江川新一 ホール A)
9:40-12:30	[共同研究] 口頭発表 (午前の部 ホール A：8 件、ホール B：4 件)
12:30-13:30	昼休憩
13:30-16:50	[共同研究]口頭発表 (午後の部 ホール A：9 件、ホール B：7 件)
16:50-17:00	閉会の挨拶 (所長：栗山進一 ホール A)



Zoom 会議の様子



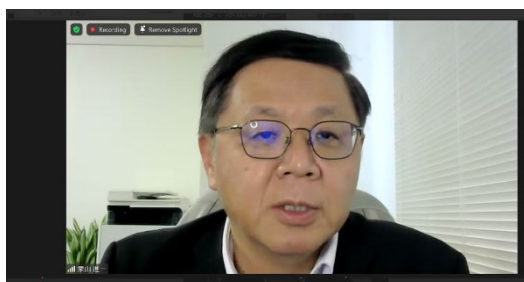
開会の挨拶：江川新一センター長



活発な意見交換が行われました



NTT 共同ビジョン共有型共同研究の報告



閉会の挨拶：栗山進一 所長